

## 会長就任のご挨拶



会長 岡田 穰

最初に、この場をお借りいたしまして、令和6年1月1日に発生しました能登半島地震およびそれに伴う津波により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆様のご苦勞やご心痛は計り知れないものと存じます。また、今回の災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様に対し、深くお悔やみ申し上げます。そして、現在もその復興に向けてご尽力いただいております学会員を含めた皆様に、深く敬意を表します。

このたび、山形大学農学部の林田光祐教授の後任として、日本海岸林学会の会長に就任いたしました。本学会は2000年に海岸林研究会として発足し、その後、海岸林学会、日本海岸林学会と名称を変更し、今年で25年目を迎えます。本学会は設立当初より日本学術会議の協力学術団体として登録されており、私の大学時代の恩師である初代会長の故中島勇喜会長をはじめ、江崎次夫会長、吉崎真司会長、井上章二会長、林田光祐会長、そしてそれを支えてきた歴代の副会長の方々のご尽力によって築かれてきました。今回の会長交代は、学会創立メンバーではない私が、学会発足の当初から学会を牽引されてきた歴代会長からバトンを受け継ぐという大きな転換点であり、その重責を担うことに対し、身の引き締まる思いでございます。そこで、私としましては今回の就任を機に本学会を多くの方々が交流することができる『場』とするべく準備を進めたいと考えております。これは本学会での全く新しい考えではございませんが、この視点で改めて見つめ直した「Re:日本海岸林学会」を築いていきたいと考えます。

第一の『場』は、地域との交流の場です。本学会は歴代の会長が口にしてきた「地域に根差した学会」という言葉を大切に、学会大会を各地で開催するほか、海岸林に関する活動を通して地域に貢献した個人または団体に対して「海岸林学会賞（地域賞）」を授与しております。これによって地域の皆様への感謝を示すとともに、学会員の皆様へ広くご紹介することで、地域の方々に海岸林へ更なる愛着を抱いていただきたいと考えます。さらに現在は広報委員会が主体となって、各地の海岸林や関連した活動について情報交換をする『場』の準備も進めております。

第二の『場』は、多分野の研究者・技術者との交流の『場』です。これは海岸林が「海岸やその流域で起こる様々な現象と共に成立している」という観点で、「現場」で起きている様々な現象や課題を様々な舞台・分野で活躍する研究者や技術者、地域の方々の抱く「海岸林への思い」を広く受け入れ、気軽に情報交換ができる雰囲気を持つ『場』をつくっていきたいと考えます。これは故中島会長、江崎会長が特に大事にしていた視点であるとともに、私自身も自然科学分野と社会科学分野の両方を渡り歩いてきたが故に、非常に強く感じている部分であります。

第三の『場』は、多くの情報を発信できる『場』です。皆様もご存じの通り、最近では学会誌への掲載数の減少が著しく、学会の存続自体への大きな脅威となっております。そこで現在は編集委員会を中心となって学会誌の改革を進めており、掲載論文等へのDOIの付与をこの春から開始して学術雑誌としての質を維持しつつ、より多くの方々に気軽に投稿していただけるような仕組みづくりも始めています。

このように多くの『場』を揃えることで、学会員の皆様へのサービスの充実は当然として、より気軽に多くの交流ができるよう、学会の活性化に取り組んでまいります。そしてこの活性化には多くの学会員の皆様のなご一層の積極的な参加とご協力が必要不可欠です。皆様と一緒にこの学会をもっと盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひ皆様からのご意見やご協力をお願いできればと思います。

専修大学商学部 教授